

研究開発完了報告書

住所 長野市南長野幅下692-2
 管理機関名 長野県教育委員会
 代表者名 教育長 原山 隆一

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発の実施状況を、下記のとおり報告します。

記

1 事業の実施期間

令和2年 5月8日(契約締結日)～ 令和3年 3月 31日

2 指定校名・類型

学校名 長野県飯田OIDE長姫高等学校
 学校長名 原 康倫
 類型 プロフェッショナル型

3 研究開発名

未来価値を創る玉手箱「地域協創スペシャリスト」育成プログラム

4 研究開発概要

総合技術高校の強みを生かし、工業科と商業科について専門性を追究するとともに、学科間連携による学びを通して、「環境保全」、「ビジネス」、「地域資源」の有効利用の面から多角的で実践的・探究的な考え方や行動ができ、かつ地域の産学官や異業種とも連携し、新たな付加価値・産業の創発(オープン・イノベーション)ができる「地域協創スペシャリスト」の育成を目的とする。

そのために、生徒が以下の力を身に付けることを目標とする。

- | |
|---|
| (1) 探究型プロフェッショナルとしての「高度な専門性」 (2) 未来の地域人教育の実践を通じた主体的な「課題解決力」 (3) 地域産学官や異業種と協働して新しい付加価値を創り出す「協創力」 |
|---|

5 教育課程の特例の活用の有無

無

6 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

| 実施項目 | 実施日程 | | | | | | | | | | | |
|------------|------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 未来ものづくり委員会 | 1回 | | | | | | | | | | | |
| 夢まちづくり委員会 | 1回 | | | | | | | | | | | |
| 地域人教育推進委員会 | 1回 | | 1回 | 1回 | | 1回 | | 1回 | 2回 | | 1回 | |
| 運営指導委員会 | | | | 1回 | | | | | | | 1回 | |

(2) 実績の説明

① コンソーシアムについて

ア 構成団体

| 機関名 | 機関の代表者名 |
|---|--|
| 機械・電子・電気系コンソーシアム「未来ものづくり委員会」 飯田精密機械工業会 飯田電子工業会 飯田商工会議所 | 会長（株式会社キョーパームテック社長）野沢稔弘 会長（信菱電気株式会社代表取締役社長）川手清彦 会頭 原 勉 |
| 建設系コンソーシアム「夢まちづくり委員会」 長野県建設業協会飯田支部 | 支部長（北沢建設株式会社代表取締役）北沢資謹 |
| 商業系コンソーシアム「地域人教育推進委員会」 松本大学（地域人教育三者連携） 飯田市（地域人教育三者連携） 飯田信用金庫 | 松本大学学長 菅谷 昭 飯田市長 佐藤 健 ※（令和3年1月1日～） 飯田信用金庫理事長 小池貞志 |

※令和2年12月31日まで 牧野 光朗（市長改選による変更）

イ 活動日程・活動内容

機械・電子・電気系コンソーシアム「未来ものづくり委員会」

| 活動日程 | 活動内容 |
|--------------------|--|
| 令和2年4月21日 第1回会合 | ・委員会主催の講演会について、本年度は「地域企業・ベンチャー・技術者」の観点から、講演者の選定を行うことを決定。 ・講習会(ロボット, GOT)の講師や連携企業の選定に対する指導・助言。 |

建設系コンソーシアム「夢まちづくり委員会」

| 活動日程 | 活動内容 |
|--------------------|---|
| 令和2年4月16日 第1回会合 | ・今年度は「地域で活躍する人材の育成」を目標に事業支援を行うことを決定。 ・社会基盤工学科と建築学科のインターンシップ、講習会及び建築学科のワークショップについて、コロナ感染の情勢を見つつ、実施出来る活動について確認を行い、今後の活動についても、適宜連絡を取り合いながら進めることを確認。 |

商業系コンソーシアム「地域人教育推進委員会」

| 活動日程 | 活動内容 |
|---------------------|---|
| 令和2年4月6日 第1回会合 | ・飯田市、松本大学、本校商業科の3者（以下3者）による今年度の体制を確認したほか、本委員会の在り方や目指す方向性について合意。 ・コロナ禍における地域人教育について、実施時期や内容について、学年間の組み換えも含め、今後の対応について指導・助言。 |
| 令和2年6月12日 第2回会合 | ・3者の現状の共有の後、授業開始に向け、意見交換を実施。 ・コロナ禍の地域の状況から、本校生徒に期待する活動について指導・助言。 |
| 令和2年7月17日 第3回会合 | ・住民が自ら街を支える活躍事例を紹介するなど、「社会関係資本」に関する教員研修を実施。 |
| 令和2年9月25日 第4回会合 | ・感染レベルに応じた授業計画の策定や、活動内容の変更について、指導・助言。 ・11月の1年生松本市フィールドスタディの内容について検討。 |
| 令和2年11月13日 第5回会合 | ・12月に実施する2年生対象の地域の公民館活動に関する講義を飯田市へ要請。 ・成果発表会後に3者で、次年度に向けての研修会を実施することを確認。 |
| 令和2年12月11日 第6回会合 | ・成果発表会について情報を共有し、感染症対策を徹底することを確認。 ・発表会後の研修会では、各地区で今年度のふりかえりを行うことを提案。 |
| 令和2年12月23日 第7回会合 | ・当日実施の地域人教育成果発表会を経ての意見交換。 ・地区ごとのふりかえりを実施し、内容を報告。3者の代表者から指導・助言。 |
| 令和3年2月19日 第8回会合 | ・今年度の総括 ・パートナーシップ協定の見直しに関する検討チームを発足させることを合意。 |

②カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

ア 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

- ・飯田産業センターオーガナイザー 久保田優典 氏
(都度依頼, 謝金対応, 機械・電子機械・電気機械工学科を中心としたカリキュラム開発の支援)
- ・長野県建設業協会飯田支部理事 野島 登 氏
(都度依頼, 謝金対応, 社会基盤工学科を中心としたカリキュラム開発の支援と建築学科との連携支援)
- ・長野県建設業協会飯田支部 事務局長 牧田 孝好 氏
(都度依頼, 謝金対応, 建築学科中心としたカリキュラム開発の支援と社会基盤工学科との連携支援)
- ・飯田市公民館副館長 秦野 高彦 氏
(都度依頼, 謝金辞退, 商業科のカリキュラム開発の支援)

イ 活動日程・活動内容

久保田優典 氏 (機械・電子機械・電気機械工学科)

| 日程 | 内容 |
|------------|---|
| 令和2年7月6日 | ・学校地域協働推進委員会に参加。昨年度の事業を踏まえ、カリキュラム開発の視点から指導・助言。 |
| 令和2年11月19日 | ・未来ものづくり委員会主催の講演会に参加。 |
| 令和2年12月18日 | 電気電子工学科課題研究発表会にて、指導・講評。 ・「実習機材の補修」に関する研究に関連し、機械の保全やメンテナンスの重要性について説明し、今後の授業展開について、教員に対し指導・助言。 |
| 令和2年12月23日 | 機械工学科課題研究発表会にて、指導・講評。 |
| 令和2年12月24日 | 電子機械工学科課題研究発表会にて、指導・講評。 |

野島 登 氏・牧田 孝好 氏 (社会基盤工学科・建築学科)

| 日程 | 内容 |
|-----------------|--|
| 令和2年7月6日 | ・学校地域協働推進委員会に参加。昨年度の事業を踏まえ、カリキュラム開発の視点から指導・助言。 |
| 令和2年9月11日～計4回 | 「課題研究」インターロッキング舗装指導。 ・技術指導を含め、課題研究全般について指導・助言。 ・体験的な学習の重要性を指摘し、事業所との連携の時間を増やすよう提言。 |
| 令和2年11月18日, 19日 | 「現場見学会」を企画, 実施・運営。 ・社会基盤工学科, 建築学科それぞれのカリキュラムを作成・実施。 |
| 令和2年12月10日 | 「女性技術者講習会」の企画, 実施, 運営。 ・技術指導を含め、課題研究全般について指導・助言。 |
| 令和3年2月1日, 3日 | 「重機操作技術講習会」の企画, 実施, 運営。 ・技術指導を含め、課題研究全般について指導・助言。 |

秦野 高彦 氏 (商業科)

| 日程 | 内容 |
|----------------|--|
| 令和2年7月6日 | ・学校地域協働推進委員会に参加。昨年度の事業を踏まえ、カリキュラム開発の視点から指導・助言。 |
| 令和2年6月12日 他 | 「地域人教育キックオフ」企画, 実施・運営。 ・飯田市長の講演会及び各地区公民館や地域住民との連絡・調整。 ・地区別フィールドスタディの実施方法, 課題発見の手法について検討。 |
| 令和2年12月23日 | 地域人教育成果発表会にて、指導・講評。 ・公民館や地域の変化について説明し、地区, 主事, 教員がそれぞれの立場で生徒に関わることで、アドバイスの標準化を図ることを指導・助言。 |

③地域協働学習実施支援員について

ア 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

株式会社週休いつか代表取締役 新海 健太郎 氏 (非常勤職員として雇用, 都度依頼)

イ 実施日程・実施内容

| 日程 | 内容 |
|----------------------------|---|
| 令和2年4月10日 | 学校設定科目「地域活性プロジェクト」について、担当教員と協議。休校中の課題について、担当教員とともに作成。 |
| 令和2年6月2日 ～ 令和3年1月21日 | 科目「地域活性プロジェクト」（2単位）における生徒への講義や技術指導。連携する市内の10の企業をコーディネート。11月の公開授業では、報道各社や飯田市役所、地元企業の参加に係る交渉・調整、当日の運営を担当。 |
| 令和2年7月7日 | 職員向けの研修会の実施。 演題「外部機関との協働を生徒の協創力の向上と進路実現に結びつけるため」 |
| 令和2年9月25日 ～11月6日 | 商業科科目「商品開発」にて、商品パッケージの制作に資する技術指導（デザイン技法及びAdobe illustrator 技法）を実施。 |
| 令和2年12月8日 | 学校設定科目「地域ビジネスと環境」の研究授業に向け、担当教員との協議、生徒に対し「AI技術を踏まえたこれからの地域社会で生きること」を講義。 |
| 令和3年1月14、19日 | 学校科目「地域活性プロジェクト」発表会に際し、関係企業、市役所の参加に係る交渉・調整。当日は生徒に対する指導・講評。 |
| 令和3年2月～3月（全8回） | 学校設定科目「地域活性プロジェクト」「地域ビジネスと環境」における次年度の検討会議に参加し、本事業で目指す力の育成に関し、授業全般に対し助言・指導。 |

④運営指導委員会について

ア 運営指導委員会の構成員

委員長：平岡 和久（立命館大学政策科学部教授）

委員：木下 悦夫（飯田市副市長 ～令和2年12月31日まで）

高田 修（飯田市副市長 令和3年1月1日から 市長改選に伴う人事異動）

田開 寛太郎（松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科専任講師）

中谷 秀幸（長野県南信州地域振興局環境課長）

イ 活動日程・活動内容

| 活動日程 | 活動内容 |
|--------------------|---|
| 令和2年7月14日 （第1回） | 本年度の計画と進捗状況の確認を行い、以下について指導・助言及び意見交換。 ・今後のコロナの状況を鑑み、Web上の活動の充実させること。 ・課題研究のテーマは、複数年継続するものがあれば、企業も取り組みやすい。 ・学校側だけでなく地域の大人に対しても、事業の概念を広めること。 ・外部人材の活用の際、その人の考え方や生き様を感じてもらい取組を提言。 |
| 令和3年2月18日 （第2回） | 本年度の取組状況の報告を受け、以下について指導・助言及び意見交換。 ・生徒の学習評価の項目について、定量目標値を統一すること。 ・学校設定科目「地域ビジネスと環境」は、高度な専門性の育成より、課題解決力育成の内容に適している。 ・商業科で行われてきた地域人教育について、工業科においても実践すること。 |

⑤管理機関における取組について

ア 管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

- ・管理機関（長野県教育委員会）は運営指導委員会を設置・開催しており、課題研究発表会や研究開発関連授業等へ参加し、担当主事が指導・助言を行っている。また、県の「カリキュラム編成支援事業」により、地域協働学習実施支援員を配置することで、人的支援を行っている。さらに、県教育委員会主催の「探究的な学び研究会」や「マイプロ長野県 Summit」へ該当校の教員・生徒の参加を促しており、本事業に関わるカリキュラム開発や、参加生徒の思考力・判断力・表現力の育成につながっている。
- ・機械・電子・電気系コンソーシアム「未来ものづくり委員会」、建設系コンソーシアム「夢まちづくり委員会」、商業系コンソーシアム「地域人教育推進委員会」からは、各学科を中心とした実習等の授業支援や、講習会・講演会等の開催の支援を受けている。
- ・3つのコンソーシアムを結びつける「学校地域協働推進委員会」を7月に開催し、校務分掌として本年度から設置した「地域協創推進室」と連携しながら、学科連携・融合事業や「協創力育成」に向けた取組内

容について支援を受けている。

イ 事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・事業終了後も県の「カリキュラム編成支援事業」地域協働学習実施支援員を配置し、予算措置を行う予定。
- ・本事業の推進を学校経営の核と据え、該当校のグランドデザインを本事業の目的・目標に重ねることで、事業終了後も学校の教育活動全般で本事業内容を継承できるよう指導した。

ウ 高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

- ・平成25年4月に商業科で地域人教育に関するパートナーシップ協定（本校、松本大学、飯田市）を締結しており、本事業の内容にあわせて内容を一部改訂するため、次年度は検討委員会を設置する。機械・電子・電気系及び建設系コンソーシアムについても、協定締結について検討を進める予定である。

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

| | 実施項目 | 実施日程 | | | | | | | | | | | |
|--------|---------------------------|------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 高度な専門性 | ア 各種技術講習会等 | | | | | 4回 | 5回 | 7回 | 5回 | 4回 | | 2回 | |
| | イ 学校設定科目「地域ビジネスと環境」の研究 | 1回 | 1回 | | | | | | | 4回 | 3回 | 2回 | |
| 課題解決力 | ア 工業科「地域人教育」 | | | | | | | 1回 | | 5回 | | | |
| | イ 商業科「地域人教育」 | | | 4回 | 5回 | 4回 | 6回 | 6回 | 6回 | 8回 | 3回 | 3回 | |
| | ウ 「課題研究」における学科融合グループの研究 | | | | | | 1回 | | | | | | |
| | エ 学校設定科目「協創教育基礎」の研究 | | | | | | | | | 21回 | | | |
| 協創力 | ア 学校地域協働推進委員会 | | | | 1回 | | | | | | | | |
| | イ 学校設定科目「地域活性プロジェクト」の授業実践 | | | 9回 | 5回 | 4回 | 8回 | 7回 | 5回 | 8回 | 6回 | | |
| | ウ UVプリンタの活用研究 | | 1回 | | 1回 | 1回 | 1回 | 1回 | 1回 | 4回 | | | |
| | エ 職員研修会 | | | | 1回 | | | | | | | | |

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

・「高度な専門性」の育成に係る研究開発について

ア 各種技術講習会等

ロボット学習システム講習会 8/4（火）、5（水） 職員9名

高校生が教える小学生向けのSTEM教育 8月5日（水）～7（金） 機械工学科1年生 5名

建築士会及び長姫建築会と連携して自由設計指導 8/28（金） 建築学科3年生 34名

建設現場安全教育講習会 9/17（木） 建築学科、社会基盤工学科 3年生 71名

ECO コンテスト講習会（指導及び発表会） 10/12（月）、11/30（月） 建築学科1・2年生 80名

未来ものづくり委員会講演会 11/19（木） 機械工学科、電子機械工学科、電気電子工学科全員 346名

演題：「不屈の精神、なぜ24才で起業したのか？」講師：(株)DMT平澤正幸氏

長姫建築会と連携してOBによる社会人講演会 12/10（火） 建築学科 1年生 40名

県建設業協会と連携して建設業で活躍する女性社員講習会 12/10（木） 社会基盤工学科 2年生 40名

建築学科 2年生 40名

重機操作技術講習会 2/1 (月)・3 (水) 社会基盤工学科1年生 40名
地元の広告デザイン会社と連携してソフトウェアを用いた商品の企画・開発 (全10回)

9/25 (金)～11/6 (金) 全10回 商業科3年生 13名

イ 学校設定科目「地域ビジネスと環境」の研究 テキストの開発 通年

「地域ビジネス分野」の模擬授業 12/1 (火)・8 (火) 電気電子工学科・商業科 2年生 78名

「環境分野」の模擬授業 12/22 (火)・25 (金)・1/8 (金)・12 (火)・14 (木)

電子機械工学科・商業科 2年生 77名

なお、「地域公開講座」は計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。

・「課題解決力」の育成に係る研究開発について

ア 工業科「地域人教育」

2年生 建築学科 40名 インターンシップ 10/7 (水)～8 (木)

2年生 全学科 275名 企業紹介ビデオ 12月の視聴

3年生「課題研究」における地元企業等との連携事例

・KOAエレクトロニクス(株)と協働し、企業の得意分野であるセンサ・モータ・PLCを活用したシーケンス制御装置「ミニチュア工場」の製作 6月～12月 電子機械科工学科 3年生 3人

・建築士会及び長姫建築会と連携して自由設計指導 8/28 (金) 建築学科3年生 34名

・「産・官・学連携の取組」一級河川 松川にOIDEなんしょ！プロジェクトの「インターロッキングブロック舗装ができるまで」 社会基盤工学科 3年生 10人

イ 商業科「地域人教育」

1年生 76名 7月～9月 自分史制作, 10月～11月松本市内フィールドスタディ (事前・事後学習)

2年生 80名 9/10 (木)～13 (日) インターンシップ, 12/16 (水) 公民館活動に関する講演会

3年生 79名 6/2 (金)～1/22 (金) 飯田市内10地区で公民館主事と連携し「課題研究」を実施

ウ 学科融合グループの課題研究

建築学科と商業科との学科連携ワークショップ 9/11 (金) 3年生 13名

エ 共通教科における「協創教育基礎」の研究と実践

1学年全員 理科「科学と人間生活」における模擬授業の実施 12/10 (木)～28 (月) 各クラス3時間
授業内容：気象災害、地震災害、感染症を題材にした講義とグループワーク、課題作成

・「協創力」の育成に係る研究開発について

ア 学校地域協働推進委員会の運営

7/6 (月) 各コンソーシアムの代表者、カリキュラム開発等専門家等外部8名 校内8名参加

イ 学校設定科目「地域活性プロジェクト」の授業実践

選択者：各専門学科 3年生 44名

担当者：各専門学科代表教員5名及び地域協働学習実施支援員1名 計6名

内 容：IoTを活用する技術力の向上 6月～7月

組織の中での役割と職務 8月

地域課題解決の観点からビジネスとモノづくりを通じた企業等と連携したPBL 9月～12月

ポスターによるプレゼンテーション (発表会) 1/14 (木), 19 (火)

ウ UVプリンタの活用研究

職員対象の技術講習会を実施 4月 職員20名

機械工学科・電子機械工学科 課題研究におけるプリンタ活用 7月～12月

電気電子工学科「電力技術」3年生選択科目 銘板の制作 12月 15名

商業科3年「課題研究」ノベルティグッズ制作 11月

学校設定科目「地域活性プロジェクト」中学生と協働したグッズ製作他 7月～1月

エ 職員研修会

7/7 (火) 協創力の育成に向けた指導に係る研修会 職員 43名

講師：地域協働学習支援員 株式会社週休いつか代表取締役 新海 健太郎 氏

なお、海外交流事業については、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和3年度のフランスへの渡航を断念し、台湾での国立虎尾高級農工職業学校との交流に向け、海外交流コーディネータとの打ち合わせを行った。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

- ・「課題研究」における企業等との連携（②課題解決力 ア イに記述）
- ・学校設定科目「地域ビジネスと環境」の研究と模擬授業（①高度な専門性 イに記述）
- ・学校設定科目「地域活性プロジェクト」の実践（①協創力 アに記述）

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

- ・共通科目における「協創教育基礎」の研究（①課題解決力 ウに記述）
- ・学校設定科目「地域ビジネスと環境」の研究と模擬授業（①高度な専門性 イに記述）
- ・学校設定科目「地域活性プロジェクト」の実践（①協創力 アに記述）

④類型毎の趣旨に応じた取組について

- ・専門性を高める講習会等の実施（①高度な専門性のアに記述）
- ・産業界との連携による取組（①～③に記述）
- ・高大連携の取組

飯田市の大学域学連携「学輪 IIDA」への参画及び高大連携フィールドスタディの参加

遠山郷エコ・ジオパークフィールドスタディ 生徒8名、職員1名参加 9/4（金）～6（日）、他

⑤成果の普及方法・実績について

- ・公開課題研究発表会（機械工学科 12/23（水）、電子機械工学科 12/24（木）、電気電子工学科 12/18（金））
- ・地域人教育成果発表会（商業科 12/23（水））
- ・学校ホームページ及び学校長ブログにより、取組状況を日々公開。
- ・視察、訪問受入（茨城県教育委員会職員 12/16（水））
- ・その他 体験学習 チラシの配布 9/19日（土） 同窓会報への掲載 9/25（金） 全国サミット 10/30（金）
地域活性プロジェクト公開授業 11/19（木） 協創教育基礎公開授業 12/16（水） SH フォーラム 2/18（木）

(3) 研究開発の実施体制について

①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

本年度から校内分掌として「地域協創推進室」を配置し、各コンソーシアムや学校地域協働推進委員会との連携を強化している。各科の代表、普通教科の代表が常駐しているため、協創力育成を目指す取組や、教科横断的な学びを推進に向け校内の連絡・調整を行う体制が構築できた。

②学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

学校設定科目「地域活性プロジェクト」「地域ビジネスと環境」の授業について、工業・商業の両科の教員が合同でプロジェクトチームをつくり、研究開発を行うことで、それぞれの専門性を融合させた新たな取組のアイデアが出されるようになった。また、担当者にも学科を横断した学びに対する責任感が生まれるなど、今後の学科連携・融合の授業に向け、成果があった。

③学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

講習会、講演会、模擬授業及び授業にてアンケートを実施し成果等の確認を行った。各種発表会や視察、訪

問等で来校した外部の方の意見についても、各コンソーシアムや学校指導運営委員会等で検証することで、事業の改善を実施する予定である。

④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

「高度な専門性」の講習会及び講演会について、必要な技術・技能が身に付く題材や講師について、各コンソーシアムから適切な指導・助言を頂くほか、講師としても積極的に参加いただいた。また各コンソーシアムを結ぶ「学校地域協働推進委員会」からは、「協創力の育成」の観点から、指導・助言を頂いている。

8 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 「高度な専門性」の育成に係る研究開発について

ア 各種技術講習会

生徒の取組に対して、各教科・科目の目標に対する評価に加え、以下の項目を評価規準として、その成果を確認しており、定量目標については1～5のいずれかを選択する5段階評価を行っている。

| 項目 | 定性目標 (例) | 定量目標 |
|----------------------------|--|-------|
| ①傾聴力 (相手の意見を丁寧に聞く力) | ・内容の確認や質問等を行うことができる ・相手の意見を正確に理解することができる | 3.5以上 |
| ②計画力 (現状を分析し目的や課題を明らかにする力) | ・作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけることができる ・実現性の高い計画を立てることができる | 3.0以上 |
| ③主体性 (物事に進んで取り組む力) | ・自分がやるべきことは何かを見極めることができる ・自発的に取り組むことができる | 3.0以上 |

例えば、建設安全教育講習会では、生徒が自身の達成度を5段階で評価した結果の平均は、社会基盤工学科(①4.6, ②4.7, ③4.7)、建築学科(①4.3, ②4.8, ③4.9)であり、この講習会のテーマが就職先等で必要となる技術であることから、両学科の生徒とも達成度は高い。また、地元の企業経営者の講演会(夢まちづくり委員会主催)では、記述アンケートにおいて「何事にも行動、率先してやるのが大事だと実感した」、「どんな辛いことがあっても、前向きに生きていきたい」、「自分の選択を広げられるように何事にも挑戦していきたい」など③主体性の「自発的に取り組むことができる」等につながっている。

各コンソーシアムと連携した取組に対する生徒の自己評価の平均値は次のとおりで、目標値を上回った。

| 評価規準 | ①傾聴力 | ②計画性 | ③主体性 |
|------------|------|------|------|
| 未来ものづくり委員会 | 4.2 | 3.8 | 3.7 |
| 夢まちづくり委員会 | 4.3 | 4.5 | 4.5 |
| 地域人教育推進委員会 | 4.3 | 3.9 | 4.5 |

イ 学校設定科目「地域ビジネスと環境」における模擬授業

次年度から本格実施するこの授業の地域ビジネス分野について、12月に模擬授業を2回実施し、達成度についての教員評価は、①傾聴力4.2、②計画性3.8、③主体性4.2(5段階)であった。

(2) 「課題解決力」の育成に係る研究開発について

ア 工業科「地域人教育」

建築学科のインターンシップや、課題研究で企業と協働するなかで、地域と連携した取組を実施した。

イ 商業科「地域人教育」

当初の計画より時期が遅れ、活動期間も短くなったが、3年生の課題研究では「地域人教育」として「地域の課題解決に向け行動する～コロナ禍だからこそできることがある～」のテーマのもと、例年通りに10地区に分かれ、飯田市の公民館主事とともに、様々な活動を行った。次の項目を評価規準として、例年、学習前と学習後に5段階で、その成果について評価している。

| 項目 | 定性目標 (例) | 定量目標 |
|------------------------------|---|--------|
| ①課題発見力 (現状を分析し目的や課題を明らかにする力) | ・現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる | 3.5 以上 |
| ②創造力 (新しい価値を生み出す力) | ・複数のもの (もの, 考え方, 技術等) を組み合わせて, 新しいものを作り出すことができる | 3.0 以上 |
| ③発信力 (自分の意見をわかりやすく伝える力) | ・事例や客観的データ等を用いて, 具体的にわかりやすく伝えることができる | 3.5 以上 |
| ④主体性 (物事に進んで取り組む力) | ・自分がやるべきことは何かを見極めることができる ・自発的に取り組むことができる | 3.0 以上 |
| ⑤実行力 (目標を設定し確実に行動する力) | ・失敗を恐れずに, とにかくやってみようとする果敢さを持って, 取り組むことができる | 3.0 以上 |

その結果, 授業の前後で自分自身の力を次のように認識しており, 記述アンケートには「自分の意見を分かりやすく伝えることが出来るようになった」「自分でやることを探して行動できるようになった」「楽しいことだけでなく, 悩むことや疲れることもあったが, 社会に出るいい練習ができた」などと記載があることから, 体験を通して, 実行力や発信力を中心に力が身に付いてきている。

| | ①課題発見力 | ②創造力 | ③発信力 | ④主体性 | ⑤実行力 |
|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 学習前 (6月) | 2.89 | 2.72 | 2.75 | 3.01 | 2.79 |
| 学習後 (1月) | 3.79 | 3.76 | 3.83 | 4.06 | 3.93 |
| 上昇ポイント | 0.81 | 1.04 | 1.08 | 1.05 | 1.14 |

ウ 学科融合グループの課題研究

学科連携・学科融合のグループをつくり活動することはできなかった。その中で, 建築学科と商業科のグループが, 「飯田市街地の建物とその広場の活用方法」をテーマに, 双方の視点から課題を出し合い, そこで得た意見をそれぞれの取組に生かすことができた。

エ 共通教科における「協創教育基礎」の研究と実践

危険な箇所, 避難場所への経路, 避難の仕方などの, それぞれの専門の視点から気づきがあり, 具体的な提案ができた生徒もいた。授業アンケートでは, 「自分なりに地域における問題を思いついた」21%, 「資料の中から, 地域における問題点を発見できた」33%, 「暮らしの中で, いくつかの注意点に気づいた」35%, 「役立つことは少ない」8%, 「役立たない」3%となり, 多くの生徒が授業を通して地域の防災に関して, 問題を発見することが出来ている。

(3) 「協創力」の育成に係る研究開発について

イ 学校設定科目「地域活性プロジェクト」の授業実践

それぞれの専門学科の特性を生かしつつ, 全ての学科の生徒が共に学ぶ新たな授業を開始することができた。次の項目を評価規準として, 学習前と学習後に5段階で, 学習成果について評価した。

| 項目 | 定性目標 (例) | 定量目標 |
|--------------------------|---|--------|
| ①規律性 (社会のルールや人との約束を守る力) | ・相手に迷惑をかけないように, 最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している | 3.5 以上 |
| ②創造力 (新しい価値を生み出す力) | ・従来の常識や発想を転換し, 新しいものや解決策を作り出すことができる | 3.5 以上 |
| ③働きかけ力 (他人に働きかけ巻き込む力) | ・相手を納得させるために, 協力することの必然性 (意識, 理由, 内容など) を伝えることができる。 | 3.0 以上 |
| ④柔軟性 (意見の違いや立場の違いを理解する力) | ・自分の意見を持ちながら, 他人の良い意見も共感を持って受入れることができる。 | 3.0 以上 |

その結果、次のとおり生徒・教員とも、授業後は全ての項目で目標値を上回り、生徒は②創造力や③働きかけ力、教員は③働きかけ力や④柔軟性が特に身に付いたと認識している。特に2学期以降は、複数学科でグループをつくり、企業等と連携したPBLを実践したことで、意見の違いを理解する力や、相手に働きかける力が必要な場面が多くなった。記述アンケートには「たぐさんのコミュニケーションを通して成長できた」「自分の企画は断念したが、意見が伝えられたことは良かった」「他学科の生徒や企業の人と一緒に学ぶ経験は他の学校ではできないので、貴重な経験だと感じた」など、「協創力」育成につながる授業の実践ができた。

()は担当教員

| | ①規律性 | ②創造力 | ③働きかけ力 | ④柔軟性 |
|---------|--------------------|-------------------|--------------------|--------------------|
| 学習前(6月) | 3.59 (3.00) | 2.82 (3.00) | 2.82 (2.25) | 3.45 (3.00) |
| 学習後(1月) | 3.93 (3.75) | 3.52 (3.75) | 3.48 (3.50) | 3.93 (4.25) |
| 上昇ポイント | 0.34 (0.75) | 0.7 (0.75) | 0.66 (1.25) | 0.48 (1.25) |

学校地域協働推進委員会(ア)は、昨年度未実施であったが本年度は開催し、多くの貴重な意見を頂いた。UVプリンタの活用(ウ)については、教員研修を行うなど、多くの場面で活用できるよう研究を進めた。職員研修会(エ)については、当初の計画にはなかったが、地域協働学習支援員の講演会を開催し、学校全体で「協創力」の育成について考える機会を持つことができた。【添付：目標設定シート】

9 次年度以降の課題及び改善点

(1) 研究開発について

「高度な専門性」の育成については、コロナ禍により一部事業を中止したものもあるが、本年度も各コンソーシアムと連携して数多くの講習会等を実施することで、目標とする資質・能力の育成につながっており、次年度は「地域ビジネスと環境」の授業を本格実施することで、それぞれの専門をより伸ばさせる取組につなげたい。

「課題解決力」の育成については、商業科の「地域人教育」を中心に、目標とする資質・能力の育成につながっているが、今年度は「課題研究」の授業において、年度当初の休業の影響により、どの学科も「課題設定」の時間が短くなり、生徒自身が課題を見出す過程について、十分な指導ができなかった。次年度は工業科の「地域人教育」や学科連携・融合の取組を進め、「協創教育基礎」の授業を本格実施するとともに、課題解決力育成に必要な、課題を見出し、その課題を自分事として捉える力の育成にも重点を置きたい。

「協創力」の育成については、学科融合科目として「地域活性プロジェクト」の授業が始まり、生徒はもちろん教員も今までにない授業にワクワクしながら取り組むことができた。一方で国際交流事業については、コロナ禍の影響もあり十分な成果につながっていないが、海外渡航の可否にかかわらず、生徒が文化の違いや国際交流を通して「協創力」を育成できるよう取組内容の充実を図りたい。

上記に加え、生徒が「高校で何をしてきたのか」と問われたときに、本事業で行った多くの体験を、自分の言葉で自信を持って答えるためには、各取組における「ふりかえり」の更なる充実が必要である。

(2) 実施体制について

「地域ビジネスと環境」は複数学科の授業を同時展開するには、授業場所の確保や、時間割の作成が難しく、外部講師の選定や教材の作成など、各専門学科が連携して調整が必要な事項も多く、担当教員の負担が大きい。また、「地域活性プロジェクト」など新たな取組には、外部講師謝金や必要経費がかかるため、事業終了後の予算措置についても検討が必要である。最終年度を迎えるにあたり、校務分掌である「地域協働推進室」を中心に、「運営指導委員会」や「学校地域協働推進委員会」など本事業にかかる地域を中心とした外部の方々と協働し、事業終了後も、継続可能な取組になるよう解決を図りたい。